

令和元年度 日本大学認定こども園 自己評価票

〔本園の目指すこども園像〕

日本大学教育理念である「自主創造」に基づき、「のびのびと自己を発揮し、人と共に生きる子ども」を育てていく事を目指し、子どもの意欲や興味、関心、好奇心、探求心などの心情、考える力、学ぶ力を豊かに育てていく。

〔本園の特長及び課題〕

日本大学認定こども園は幼保連携型認定こども園である。幼児期の学校教育を担ってきた幼稚園と、養護・保育を主とした保育所機能を一体化して「質の高い教育・保育」を提供するとともに、子育て支援を軸とした、地域を支える機能をも発揮して行かなければならない。

令和元年度の取組結果

〔概況〕

- ・ 設立3年目、園児189名が揃い活気にあふれたこども園となった。日本大学認定こども園が目指す「質の高い教育・保育計画」の実現に努め、子ども達の健康な心と体と健やかな成長を確認することができた。
- ・ 地域への子育て支援は、昨年より回数と内容の充実を図り実施した。参加者は毎回楽しみにしていて、内容共に好評であったが、開催回数や1回の参加者数を増やしてほしいとの積極的な声が多数あった。来年度検討していきたい。
- ・ 昨年度課題となった、各学年から学年への切れ目のない教育・保育の接続や移行について、教職員の中から担当者を決め年間指導計画の見直しを1年間かけて行った。より具体的な年間指導計画内容の土台を作ることができ来年度の学年から学年へつながっていく教育・保育に生かしていきたい。
- ・ 利用者が乳幼児ということで、毎日の保護者対応は昨年度以上に子どもの姿や成長面を丁寧に伝えた。こども園、担任への信頼関係を築くことにつながった。また、日本大学認定こども園における、教職員ハンドブック「教育・保育従事者の心得 ～信頼される教育・保育従事者として」を作成し、相互理解を行い教職員の質向上に努めた。
- ・ 特別教育「運動指導・英語・リトミック」を子ども達が楽しく学ぶことができた。入園のための見学者からは、是非とも受けさせたいと高評価で園児募集につながっている。

教育課程・指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
主体的に遊びこむことができる環境づくり	園庭環境の充実に取り組んでいる。園庭には実のなる木や、多くの昆虫が集まる草花を植えている。実を集めて制作に使用する、梅の実でジュースを作り味わう、虫を観察する、野菜を育て収穫して食べるなど、環境を生かした取組を通して、豊かな感性や他者との関わりなど様々な経験に結び付けた。季節感あふれる自然環境を充実させていくことで、子どもの好奇心や探究心を刺激し主体的に遊びこむことができた。	A
健康な心と体の育成	木目調を主体とした園舎、木製の家具や玩具など、気持ちが落ち着ける環境を整えている。特に玩具は、子どもの想像の広がりを用意して色のない木製の物を導入し、同時に成長・発達に応じた手作り玩具も準備し、存分に遊びに集中できるように設定している。また、日々の活動に加え、外部講師による特別教育、リトミック・英語・運動指導を実施している。どの特別教育も年齢に応じた内容で楽しみ、経験している。活動のルール、身体の動かし方、協同する楽しさ、悔しさ、達成感、心地よさなどを育てている。各子どもの視点に基づいて様々な活動を計画に位置づけ、多様な経験ができる場を提供し、心身の育ちを支えた。	A

基本的な生活習慣を身に付ける	子ども一人ひとりの個人差・発達・成長に合わせて指導をしたが、できている部分と反省すべき点がある。原因と対応策を探るとともに、教職員がゆとりをもって指導するというところを検証していきたい。	B
----------------	---	---

園生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
保護者会と保育参観	保護者に、園のねらいや方針への理解を深めて頂くため、子ども達の姿や取組の様子を動画やクラスだよりで伝えた。保育参観を行い、実際に見てもらうことも実施した。	A
安全対策	今年度は秋に大型台風の襲来があった。気象予報や実際の暴風雨、それらを踏まえた被害の想定、その後の開園の見通しなどを立て、対応策を協議した。起こりうる事態を場面分けし、それぞれの場面における対応策を策定した。保護者への緊急メールの配信内容も事態別に作成し、事態の変化に応じて敏速な発信しうる態勢を整えた。当日は区の窓口も業務を休止していた中、命の安全を第一に考えて決断と対応策の実行を行った。「何を優先すべきか」を常に念頭に置いて運営を行ってきたことが、危機的な事態における的確な判断や行動につながった。 午睡時の子どもの安全チェック（乳児5分間隔・幼児15分間隔）を励行した。保育室の安全チェックを毎月実施し、安全表で漏れがないよう確認した。	A
伝統や四季を感じる行事と環境工夫	日本古来の行事を積極的に教育・保育に取り入れ、制作、歌、食事、表現活動、観劇を楽しんだ。1年を通して四季を感じられるよう園庭に草花を植えたり、自然物で作ったオブジェや草花を展示したりした。	A

情報提供・管理

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
子どもの生活と遊びを保護者と共有	「みんなの声」ボックスを設置し、保護者からの意見や要望に対応した。また、三年に一度の第三者評価を受けた。保護者からの意見を確認し次年度に生かしていく。	A
情報共有の徹底	教職員の情報の共有のため学年会議を組織化し、保育の質の維持と向上につなげた。	B
ホームページ	ホームページを定期的に更新し、こども園の取組や案内等を配信した。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
園舎内外の見回りの徹底	乳児園庭の広範囲に渡る側溝は、子どもの怪我が多発する場所であったが、フェンスを立て対応したことで怪我の軽減につながった。保護者からは安心の声が上がった。細かい箇所については随時、即対応してきた。	A
教員の職場環境の改善と健康管理	教員ハンドブックによる基本的共通事項の提示、面談を通した各自の自己目標に基づく取組の振り返り、記録類への指導等を通して、教員一人ひとりの成長を促した。特に、日々の保育の実践記録である日誌について、子どもの成長を的確に捉え、教員が必要な関りを実践していけるよう、指導を積み重ねてきた。その結果、記載内容も子どもの心の動きや関心、どのような力を身に付け、どのような育ちを見せているかといったことを捉えたものになってきている。こうした記録の変化は、教員の見方の変化と成長につながった。毎月、各学年実施した、全員	A

	参加の会議も年間予定表に組み込み実施した。	
事故報告	ヒヤリハットと事故の原因，対応策，受診内容等を細かく記載し，職員間で共有した。	A

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
貸し出し図書	貸し出し絵本の充実を図った。絵本の補充は教育・保育で使用分にとどまった。親子のふれあいの時間に嬉しいと好評であった。	B
保護者との学習会	専門機関から講師を招いて，子育ての学習会を開催した。	A
親子遠足	0才児から5歳児全園児参加の親子遠足を実施した。保護者同志，担任と保護者，親睦が深まった。	A

地域との連携

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
地域交流	地域の子育て世帯を対象に，様々なプログラムを企画し，交流や体験，相談の場を提供した。園児との交流や身体測定のほか，育児相談への対応，離乳食の試食，感染症予防の話など，専門性を生かした支援を行った。また，助産師を招いて入園前にしておきたいことについての話を聞くなど，不安や疑問の解消にもつなげた。ニーズの高い取組となった。	A
近隣との交流	初夏には園庭で収穫した梅でジュースを作り，年長組が近隣に配った。秋には遠足で収穫してきたさつま芋も同様に年長組が配った。日頃の感謝を子ども達の言葉で伝えた。	A
保育ネット世田谷への参加	世田谷区が主催する「保育ネット世田谷」に参加し，区立園や私立園と情報の共有と共に研修に参加し保育の質向上につなげている。また，年長児の食育活動を世田谷区の「地域の食環境づくり推進部会」の取組に紹介し，地域との連携につなげた。	A

※【A達成できた，B大体達成できた，Cあまり達成できなかった，D達成できなかった】

令和2年度の取組目標及び方策

教育課程・指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学びの芽生えを身に付ける	子どもが興味・関心をもって遊びたくなる環境を作り，学びの芽を育てていくことを目指す。	通年
豊かな人間性を身に付ける	友だちの想いに気がつき，それを受けとめ，相手を大切に考え行動できるようケンカは丁寧に対応し，相手を大切に思う気持ちを育てていく。動植物など命あるものを大切にする。	通年
健康・体力を身に付ける	衣服の着脱，食事，排泄，片付けなど生活に必要な基本的習慣を身に付け，各年齢の発達の特徴に沿って自分のことは自分で行えるようになることを目指す。	通年

園生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
安心・安全な環境と教育保育	衛生面、午睡、食事など安全な環境での提供に努める。	通年
試食会	新しい業者の給食提供が始まるに当たって、保護者向けの試食会を計画し食についての関心と理解を深める機会とする。	10月
四季や日本古来の伝統行事を楽しむ	園庭に四季を感じ、昆虫が集まってくるような草花や野菜を植える。日本の行事を制作や歌、表現活動で子ども達と楽しみ、保護者にも伝えていく。	通年

情報提供・管理

取組目標	取組方策	取組スケジュール
保護者への丁寧な情報提供	災害や感染症など緊急を要する重要な案件について、利用者と教職員双方に速やかな情報提供をするまでの流れを見直す。	4・5月
ホームページ	定期的な更新で、こども園の取組や情報を発信していく。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教員の意識向上を図る	教員ハンドブックや全教員参加の会議、日々の指導、0歳から5歳までの一貫した教育・保育のためのカリキュラム反省を通して、こども園としての共通目的や共通認識を促進していく。教員一人ひとりの意識向上を図っていく。	通年
本学学生との交流	豊山女子高校からの体験学習生と園児、生物資源科学部への芋ほり遠足での学生と園児の交流を図り、スケールメリットを生かした活動を行う。	7・8・10月
安全対策	子どもの安全と安心を最優先とし、日頃の事故や怪我の原因と対応策を考え、また、感染症対策や衛生・健康面の管理体制を整え、午睡時の安全チェック、災害時を想定した避難訓練などを実施していく。	通年

保護者との連携・子育て支援等

取組目標	取組方策	取組スケジュール
保護者参加行事の見直し	多くの保護者に参加してもらうための行事と日程の見直しをする。	行事ごと
第三者評価を生かす	福祉施設に課せられている三年に一度の第三者評価を受けた際、利用者アンケートに寄せられた意見を、園運営に生かしていく。	通年
個人面談	保護者と共通の認識を持ち子どもの成長を促すために個人面談を計画する。	後期

地域との連携

取組目標	取組方策	取組スケジュール
近隣小学校との交流	子どもの発達や学びの連続性を踏まえ、小学校へ円滑な接続ができるよう、小学校との交流を計画していく。	2・3月
近隣との交流	梅ジュースや芋ほりで収穫したさつま芋を子ども達が配り、近隣への感謝を伝える機会とする。	6・10月
保育ネット世田谷への参加	災害時等の非常事態の時に備えて、避難体制や日頃の情報共有の共有を行っていく。共に同じ目線で学んでいく。	ネット会議 年4回 となり組会議 年2回

中長期的目標及び方策

子育て支援

取組目標	取組方策	取組スケジュール
地域子育て支援拠点事業及び子育て相談事業の実施	週1～3回の予定で実施。在宅で子育て中の親子が遊びに来られる場所の提供をしていく。	通年

地域との連携

取組目標	取組方策	取組スケジュール
良好な関係づくり	近隣からの意見に耳を傾け、できること、できないことへの対応をきちんと説明し、常により良い信頼関係を築いていく。	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
人的面での保育の質の向上	非常勤の確保に努め、幼児クラス各25名を複数担任で担当できるようにする。怪我や事故の軽減と丁寧な対応に努めていく。	通年